

令和8年度 研究開発課題等の概要

研究体系	担当部	番号	研究課題・事業名	研究等の概要
1. 持続可能な農林水産業及び気候変動に対応した新品種・新技術の開発 優良な種子の供給と苗木生産技術の向上	育林部	1	コンテナ苗の生産に係る技術改良試験（種苗生産体制整備事業）	コンテナ苗生産者が生産現場で抱えている技術的課題を解決し、苗木生産の安定化と得苗率の向上を図るため、生産者と共同で技術の改良に取り組む。
		2	優良種苗の確保に係る採種園の適切な管理（優良種苗確保事業）	花粉の少ないスギ・ヒノキ及びマツ材線虫病に抵抗性のあるマツの優良種子を安定的に供給するため、優良系統の選抜や病害虫防除等により採種園の適切な運用を図る。
		3	採種園等における種子採取開始日の見直しに向けた調査	近年の気候変動等の影響により、種子の完熟時期が早まっている可能性が考えられることから、主要な林業樹種について、種子の完熟時期を明らかにする。 【中核機関：林木育種センター】
		4	ヒノキ雄花着花特性調査の短期間化	ヒノキにおいて少花粉品種等の複数の系統に対してジベレリン処理を行い、雄花着花性を調査することで、雄花着花特性を短期間で評価するための手法を開発する。 【中核機関：林木育種センター】
		5	ヒノキミニチュア採種園の管理技術の開発	ヒノキミニチュア採種園の光環境及び樹形を調査し、整枝剪定後の着果量を評価することによって、ミニチュア採種園の整枝剪定に関する技術を開発する。 【共同研究機関：林木育種センター】
2. 省力化・低コスト化のための技術の開発 造林・育林の低コスト化に向けた技術の開発 森林病害虫防除技術の確立	森林環境部	6	特定苗木を用いた低コスト再造林のための下刈経費及び労働力の縮減に関する研究	下刈の労力と経費を削減するため、成長に優れるスギ特定母樹の自然交配種子により生産された苗木の初期成長促進のための下刈適期について明らかにする。
		7	適時適切なナラ枯れ被害対策に向けた調査	令和2年度から県内で被害が確認されているナラ枯れについて、原因であるカシノナガキクイムシ発生被害地における生息状況等を調査し、被害対策の適期を明らかにする。
		8	造林地等におけるニホンジカの食害リスクに関する調査	ニホンジカの生息状況を把握し、造林地等の食害リスクを予測するため、センサーカメラの設置や造林地等の踏査等の調査を行う。
		9	マツノマダラカミキリ発生予察調査（海岸防災林機能強化事業）	マツ材線虫病によって枯れたマツ材内のマツノマダラカミキリの虫態別の虫数を調査し、幼虫の発育状況及び気象条件との相互関係から、成虫の発生期を予測する。
3. 付加価値向上に資する新品種・新技術の開発 特用林産物の栽培技術の開発	きのこ特産部	10	マツタケをはじめとした菌根性きのこの人工栽培技術の開発	マツタケについて、安定的（長期間、持続的）なシロ拡大技術を開発する。ホンセイヨウシロウロについては、野外での発生に適地（特にクリ園）を解明する。
		11	きのこ菌床施設栽培（ブナシメジ・ヒラタケ）における収益性向上を目指した廃培地利用に関する研究	資材高騰への対応及び生産性向上を図るため、栽培が終了した廃培地を培地に混ぜて生産現場で活用できる適切な混合割合を明らかにする。
		12	ウルシの植栽適地及び優良系統種子由来苗木の生育特性に関する研究（うるし生産体制整備事業費）	ウルシ苗の安定生産や優良系統の保存に資するため、優良系統の実生コンテナ苗の生育特性を解明する。また、ウルシ苗を山林と畑地に施肥等の管理方法を変えて植栽し、植栽方法や植栽後の管理方法を明らかにする。
		13	施設栽培におけるニオウシメジ栽培技術の改良	①菌床袋を用いた、新しいニオウシメジ栽培技術を開発する。 ②ニオウシメジの発生時期の平準化のための、発生時期の制御法を開発する。 ③資材費軽減のため、きのこ発生後の廃培地を用いた栽培技術を開発する。
		14	きのこ栽培の収益性向上のための未利用資源活用に関する研究事業立ち上げに向けた予備調査	標記事業の立ち上げに向けて、未利用資源を粉砕した時の粒径分布、菌糸伸長速度などを評価し、利用可能な未利用資源を明らかにする。
(2,3共通) 放射性物質対策	森林・きのこ	15	農林水産物モニタリング強化事業	特用林産物等の検体調製及び放射性物質検査を行い、蓄積したデータをもとに放射性物質の影響を把握し、安全な特用林産物を作るための基礎データとするとともに、データを整理・分析し関係機関へ情報提供する。